

平成25年度第4回石狩市行政改革懇話会議事録

日 時：平成26年2月28日（金） 18：00～21：00

場 所：石狩市役所3階 庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	辻 正一	○	（事務局）総務部長	佐々木隆哉
副会長	角川 幸治	○	（事務局）総務部職員・行政改革担当課長	我妻 信彦
委員	永山 隆繁	○	（事務局）総務部職員担当主査	青木祐一郎
委員	能村久美子	○	（事務局）総務部職員担当主査	古屋 昇一
委員	浅井 秀樹	○		
委員	西野 悦子	欠		
委員	菊地ひろ子	○		
委員	三上 嗣子	○		

傍聴人：0名

【辻会長】

お寒い中、お集まりいただきまして有難うございます。

皆様のお手元に配りました、たたき台としての報告書を作成しました。これについて皆様に修正していただくということが本日の目的です。

まず、若干の時間を取りますので配布した資料内容の中身を一通り、確認していただきたいと思います。

よろしいでしょうか？

最初は、どこの部分でも結構ですのでご意見を頂いて後半からは順番に修正していくということにしたいと思います。できましたら、誤字脱字等も含めて、ご覧いただければありがたいと思います。

あるいは、ここに無いことでこういう意見が出ていたというようなことがありましたら発言をお願いします。

【浅井委員】

文書の修正ということでは無いのですが、報告書2ページの、「第2次実施計画（平成25年度）」の推進状況について。

この中の、「個別意見」の部分なのですが業務改善提案の低調というのはどういう所に問題点や原因があるのか市の方でどのように検討されているのかと思います。

【社会長】

各庁内の各部門の行政改革に対するスタンスというか、その感覚というのは、前に比べて随分積極的になってきたと思います。

これは、前回の懇話会でもご意見がありましたし、皆さんの評価もそうであったと思います。

このことについては評価したいと思います。

ただですね、昨年職員に対して業務改善に関するアンケートを行った際、業務改善について何をしたいのか分からないという回答があったとのことで、能村委員や三上委員からそれについてのご指摘がありました。

私も、この問題点につきまして同意見です。ではなぜそのようなことになるのかというと、何かを改善しなくてはいけないということは十分に理解できているが、普段行っている業務の中身や制度的な問題も含めて、何に目を付けて、それをどのようにしたらよいのかということについては、まだ熟してないということです。

業務提案制度を改正して意見を出しなさいということだけではなく、いま申し上げました、どういうところに目を付けて、どのようにして業務改善をやっていたらよいのかということを含めて実施計画の素案が修正されています。

私の受け止め方としては、これは非常に適切だとも思います。

仮に、第2次実施計画の「職員提案制度の見直し」をそのままに、業務提案を提出して下さいといっても、提出しなくてはならないので仕方なく一つや二つは出すといったケースがあるかもしれません。しかし、本当の意味での行政改革とは、常に日常の仕事と共に進めなければならないと思います。

こういう考え方からいうと、精神論だけではなく少し技術といいますか、ノウハウの習得とか、そういうものに事務局の今回の案は目を向けていくということでした。

ここで、提案制度についての反応はこうだったということだけにしておきますと、何かその後、進歩がないといいますか、対応されていないという受け止め方が出てくると思いますので、あえてそこに小さな字で、コメントを入れて状況をしっかり理解していただけるような書き方をしたつもりです。

その点についていうと、能村委員や三上委員の会議における反応も個別意見のところで、「業務提案の低調は問題として根深い」という書き方をしました。

アンケート云々といいますと、ちょっと、しつこくなるものですからカットしました。

【能村委員】

私自身、普段使いなれていない言葉が2つほど目に付いたところがあります。

報告書のⅡ「第3次実施計画（平成26年度）」（素案）について」の「2個別意見」の、“開陳”という言葉あまり聞いたことがありません。このように使うものなのでしょうか？

【辻会長】

おっしゃる通りかもしれません。

別に“開陳”という言葉にこだわる必要はないと思います。

“開陳”に代わる言葉はありますか？

もう一点はどこですか？

【能村委員】

“^{きまた}期跨ぎ”という、言葉なのですが？これは、いろんな期をまたぐという意味ですか？

【辻会長】

そうですね。

それでは、報告書を1枚ずつ見ていきましょう

報告書の1枚目はよろしいですね。

Iの1の「総括評価」のところ、今の“期跨ぎ”が指摘されましたが、それ以外にないでしょうか。

【角川副会長】

“期を跨ぐことによる”、という表現に変えるぐらいでしょうか。

【辻会長】

期を跨ぐことによると表現してしまうと、また意味やニュアンスが違ってきます。

よろしければ次に行きましょう。「2個別意見」です。

【角川副会長】

ここにも“開陳”という言葉が出ていますね。

今、“開陳”の意味を調べたのですが、「人の前で自分の心中を、ありのままに述べること」ということです。同義語も調べたのですが特にめぼしいものはありませんので、良いのかなという気がします。

【辻会長】

そうですね。なにか“発表”というとなにか少し違ってくるのですよね。

【角川副会長】

本当に、こう「自分の心中を在りのままに述べる」という意味合いが、この“開陳”ということになるらしいです。

【能村委員】

であるならば、私はそれでよいと思います。

【辻会長】

それから、前回は出てこなかったのですが、角川副会長が、最初に意見を述べられた時に、今回は、実施計画の具体的な事というので、あまり議論の対象にはしなかったということでしたが、せっかくのご意見ですからこういう形で入れさせていただこうかなと思いました。大体主旨はこういうことでよろしいでしょうか？

【角川副会長】

そうですね。よろしいです。

【辻会長】

その次は、三上委員からありました、審議会等の委員募集について、実際に審議会等の開催時間を最初から固定して募集するのがよいのか、それぞれの都合を確認しながら行った方がよいのか、その部分に関してはいろいろあると思います。

したがって言葉を使って表現するならば、“望ましい”や“希望します”また“期待します”などを使用して、区別しているつもりではあります。

この部分に関しては、あまり一律に決定できない問題というところがあります。

【浅井委員】

これは、市長も読めますよね。

【辻会長】

そうです。

【浅井委員】

市長以外の方が読まれて、B P R（ビジネスプロセス・リエンジニアリング）の意味は何だろうと思われませんか？

【社会長】

大体大丈夫だと思います。その部分はあえてカタカナにしました。

次に、「3付帯意見」です。こちらは、浅井委員と能村委員から出ていた意見なのですが、そのこと自体は、別に問題の指摘等は無かったと思います。

目的事項は大綱にあり、仕組みとしては大綱と繋がっています。そこであえて、お二方の意見を活かした形で、役所の方で実施計画を進めていく際、あるいは新しいことを考える際に、頭の中に大綱を入れながらやっていくことが必要であるとなりました。

よろしいですか？それでは、次に行かせていただきます。

【浅井委員】

その前に、(2)に「プール区分のルールを活かす運用を期待します。」とありますが、この部分をもう少し強い表現がよいのかなと思います。“望みます”とかですね。

【社会長】

“望みます”というと、もうちょっと柔らかくなるかもしれませんね。

私の頭の中に使い分けの際に浮かんできている言葉では、“要請します”や“要望します”とか“望みます”や“期待します”など、それからもっと柔らかく表現すると“お願いします”という言葉などがありますね。

“期待します”辺りが、適切だとおもったのですが、強く表現するとなると、何がよいでしょうか？

“要請します”の方が少し強くなりますね？

浅井さんのおっしゃっているのは、ルールなのだからもっときちんとしてほしいということですね。

実際運用していきますと、第2プールは、すべて第1プールに上がって、1年たったところから消えているはずですが。中には、継続する、継続しなくてはならないという、期跨ぎの部分が出てくるとは思います。わたくしが言いたいのは、その部分は理解できるので、まだ第2プール以下に残っているものについては忘れずに取り組んで昇格させてほしいということです。

【浅井委員】

今の会長のお話を聞くと、“期待します”でいいのかなと思います。

【社会長】

よろしいですか？それでは、そうさせていただきます。

【能村委員】

3 ページの「3 付帯意見」内の（2）に「仕事の“費用対効用”の重視」とあります。

普通は、“費用対効果”という表現をすると思うのですが、あえて“費用対効用”の言葉を使用している理由はなんですか？

【辻会長】

理屈っぽくなってしまいますが、言われてみて、私自身も正直“費用対効果”の方が良かったような思いもします。

ただ、“費用対効果”と言ってしまうと、どうしても、コストと生み出されるものというイメージになってしまいます。角川副会長の発言の中には、むしろコストだけではないというニュアンスもありましたので、要するに役に立つ事や役の立ち方だと思います。

財政がこれでいくら削減されるということだけではなく、これはどちらかと言うと、能村思想にもあって、能村委員の考え方はそういう部分が強いですよね。ということも含めて使い慣れていませんが、あえて“効用”を使用しました。“費用”に対応すると“効用”という言葉は確かにおっしゃるとおり、ちょっと馴染まないのですけれど、こう書きました。

【浅井委員】

確かに“効果”ってしてしまうと、イメージが狭くなりますよね。

【辻会長】

そうですね。

ですから読み手も、なぜ“費用対効用”という言葉を使用したのかを考えて頂ければ有難いです。

“効用”でいいでしょうか？

【能村委員】

職員の皆さんに伝わるといいですね。

【辻会長】

この中に、そこまでの解説を入れるわけにはいかないものですから、よろしいでしょうか。

【能村委員】

はい。その意図を教えてくださいましたので、良く分かりました。

【社会長】

こんなところで、決めさせていただいてもよろしいでしょうか。

浅井さんよろしいですか？

【浅井委員】

はい、結構です。

【社会長】

よろしいですか？

随分早く終わりました、ありがとうございます。

それでは、念のため全て修正したものを持ち帰っていただいた方がよいと思いますので、事務局に修正をお願いいたします。

少し休憩します。

それで、この意見書は来月に入りましたら、出来るだけ早い時期に、大変、僭越ですが私が代表して市長にお渡しをさせていただくということで、ご了解いただきたいと思います。よろしくお願いします。

恐縮ですが、今年度の終わりですので、事務局と対面する席に移っていただいて、おかげさまで、早く終了しましたから皆さんから一言ずつ何か懇話会の感想とか、あるいはこの懇話会を通して今後このようにしたいなど、どんなことでも結構ですから。

角川副会長からどうぞ。角川副会長は1年間でしけれども、その感想などをお願いします。

【角川副会長】

私の場合は、会長がおっしゃったように、途中からということで1年間なのですけどもそれまで、行政改革についてあまり普段考えることもなく、もちろん論じることなかったものですから、果たしてどういう切り口で参加していけばいいのか、勉強もしていませんし、不安の中で参加させていただいたのですが、ここまでの率直な感想といたしまして、行革ということで本当に全て合理的に何もかも進めていくのかなと、徹底して無駄を省きながら、機械的に進めているのかなというイメージも当初はあったんですけど、実際、こうして参加させていただくと必ずしもそうでは無いと思いました。

大きな目標である大綱に向かって、時には、微に入り細に亘り細かい部分を積み上げていく、時には、大所高所から俯瞰して物事を考えていく、あらゆる方向からですね、行政

の方が、取り組まれているところを見てですね、感心したというか感嘆したというかそれが正直な気持ちです。

委員の方も、社会長をはじめとして、いろいろな観点や立場から考えており、逆に私も本当に勉強させていただいたなと思います。

私自身、発言させていただいた中で、失礼な部分も有ったかもしれませんが、自分なりに経営者の一人として、あるいは地域の人間の一人として、意見を出させていただきました。

少しでも参考にいただければ、幸いだなと思うところです。これから、この懇話会がどういう形になるか、継続して存在しているものなのか良く分かりませんが、もし機会があれば、また同じように参加させていただきたいと思っています。

社会長には、個人的にもいろいろご指導いただいたのですが、私自信は、大したお役にたてなかったのかなと思うところもあります。

個人的な話になりますが、私が会長を務めさせていただいている商工会議所青年部の例会の方でも講演を頂きました。非常に素晴らしい内容で、私も含めメンバーは勉強になりました。本当にありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

以上です。

【永山委員】

私は、市の行革に対する評価ということについては前回少しお話ししました。

私は民間で業務改善や行政改革なども経験があるものですから、どちらかと言うと、もっと大所高所の内容になって、実際に何が出来たかというとはっきりしない、逆に職員提案ということでは、かなりの人たちが提案をしてきたという様なことも経験しております。

今回の、この行政改革2016というのは相当具体的なものについて検討されておりまして、それはかなり評価できると思います。

私が、ずっと考えてきた行政改革よりは、きちんと取り組まれているという印象を受けました。

先程の議論にもありましたが、行革とは終わるものではなくて、常に動いているものだというので、今後、市の側の取り組みに期待したいと思っています。

【能村委員】

ここに参加させていただいて、会長のリードやいろいろな意見の受け止め方など、それに懇話会の在り方などを、随分学ばせていただきました。

すこしズレた発言をしても、一つくらい良いところを見つけてくださって褒めていただき、救われたという思いが正直あります。

私は、行政改革というものの行き着く先は、行政改革によって、全職員が余裕を持って

気持ちよく働ける環境を作り、その上で、市民の気持ちを受け止めてあげられるということこそが、究極の目標だと思います。市民の方も石狩市に住んで良かったと思えると良いなと思います。

そういうことに、自分がたずさわられて意見を活かしてもらえているという実感があります。ふつうに意見を述べたところで風に飛ばされてしまうのですが、この懇話会に参加することにより意見がしっかりと活かされている幸せを本当に感じました。

審議会に、もっとみんな参加していただけるようなことも、自分でPRして、この体験が出来る人を増やしていきたいなと思いました。

ありがとうございました。

【浅井委員】

私は、4年間、実質3年半、この懇話会に参加させていただきまして、全部で20回程度、懇話会に参加したと思いますが、会長、事務局、その他、委員の皆様にお世話になりました。ありがとうございます。

考えますと、石狩市が市制施行20年目、合併で新しい石狩になって10年目という節目の年なんですね。石狩市が10年とか20年経って、私たちはやっと今日までたどり着きました。

私たち市民や、職員の皆さんが、誰もが見て、良い市役所になったなど、一つの到達点を実感できるまで、さらに10年や20年ぐらいかかるかもしれません。

少なくとも来年や、再来年ではないでしょうが、いづれにしても合理的なやり方で、空白無く継続すれば、いずれ望んだ成果が得られると思います。

私は、石狩市の行革が、到達点にたどり着くまで、今後も見守っていききたいと思います。それで、今後の懇話会についての要望があるのですが、前の任期の締めくくりの時も言ったと思うんですけど、厚田・浜益にお住まいの委員をこの懇話会に加えていただきたいと思います。今回、第3次選定の実施計画において、Webカメラによる遠隔手話サービスを導入するというので、これは、そんなに装置も通信費もかからなく使えると聞いております。手話通訳で使うのであれば、おそらく画像の質も良いんだと思います。これを使えば、厚田、浜益の方も実際本庁舎に来なくても、こういう懇話会に限らず、審議会に参加できるのではないかと思いますので、その辺を実現いただけたらなと思います。

それともう一つは、コンパクトシティ化という取り組みの実証実験が日本各地ではじまっているようです。確か北海道では、旭川で本格的に取り組まれていると記憶していますが、すいません、定かではありません。石狩でも、そろそろコンパクトシティ化を真剣に取り組むべき時期か来たのではないかと思います。

もう一つは、人口減少なんですけども、3年前のこの懇話会ではなくて、他の審議会の資料に、石狩市の将来の人口推計というものが載ってまして、それによると確か、今年の人口が60,800人位なんですよ、でも実際は60,000人と人口が減ってしま

ったわけで、これは、3年前と比べても相当、早く減って来ているわけで、石狩の中長期的な、計画に相当な影響を及ぼすのではないかと思うんです。この件は、どうお考えですか？

【辻会長】

非常に大きなテーマで、当市でも検討は進んでいるみたいで、当然進んでいくと思いますけど、一応、問題提起ということで受けとめていただく事にします。

【浅井委員】

分かりました。

【辻会長】

ありがとうございます。

【菊地委員】

私も、2年間この会議に出席させていただきまして、はじめは本当に、行革という言葉だけに押されてしまって、配られる資料に目を通していただければいいのかなと思いました。ところが、レポートを出さなくてはいけないなど、いろいろ考えなくてはいけないことや、やらなくてはいけない事が出てきまして、辻会長には大変お世話になりました。分からないことなど教えて頂きながら、非常に石狩市に対していままで関心を持っていなかった部分の関心も出てきまして、新聞も石狩の欄だと、どんなことが起きているのかなど真剣に見るようになってくる中で、会社の社員たちにも札幌に住んでいないで石狩市に移っておいでなどと言っております。たしかに今おっしゃったとおりに、人口も減って6万人を切りました。そんな中で、お役所仕事だろうなと思っていたところがお役所仕事ではなくて、このように実施計画で今まで2年間取り組んできたこと、また次年度についても、この半年で委員の意見が取り上げられて第3次の実施計画が作られたこと、この市を良くしてこうという本当の行政改革がここに有るのだなと実感しています。

あまり、うまく言えないですが、自分の気持ちが参加させてもらって変わりました。石狩市はこういう事ができる、すばらしい街、市政なんだ市役所なんだと思いました。改めて市民の皆さんに話をしたくなりますね。

市政に参加させてもらって、関心を持ち、市や街を良くしたいと皆が思う事が自分たちの住みやすい街づくりになるんだろうと思います。

先程、能村さんからありましたが、また次の方もこのような懇話会に参加して理解を深めて頂いて、街の良さを、また、足りないところは自分たちが一生懸命考えて意見をして皆で街づくりをするという気持ちを持てば、もっとよい市政づくりができると思いました。

難しい言葉では、申し上げられませんが、２年間すばらしい経験をさせていただいたと思っています。

あと一つ申し上げますと、私ども石狩市で仕事をしていますと、通勤が非常に不便ですね。アクセスを中央バスだけに頼るのではなくて、何か方法は無いものかなということもいつも思うんですけども、これはもっと難しい問題でしょうね。

ある町では、１００円バスという循環バスがあるんですね。市内を巡回しているんですが、その町を訪ねたときに駅でタクシーを乗ろうと思ったら、タクシーの運転手さんから１００円バスに乗りなさいと言われました。訪ねた親戚に聞きましたら、地元では１００円バスを使用するのが当たり前だそうです。１００円バスを使用しないと循環バスの運営自体が無くなってしまうそうです。

やはり、市民全体が一生懸命に頑張れば交通の利便性も得られるんだなと思いました。

そういう部分を検討していただけると、さらに石狩市も住みやすくなるのではないかとと思っています。

【辻会長】

ありがとうございました。

【三上委員】

私が、最後になりまして大変申し訳ありません。

なかなか、会議に参加ができず、ご迷惑をかけたと思います。その点につきましては、ここでお詫びしたいと思います。

参加させていただき、こうやって実際に改革されていくところを見ていて、すごく感動しまして、参加させてもらって有意義だなと思っています。

また、他の委員の方の話を聞いていて、なるほどこういう箇所に目を向けることも必要だと考えさせられたり、会長の文面や進行などから、学ぶことが大変多くありました。

もちろん、私は、ほかの委員の皆様のような高いレベルには到達できませんが、すこしでも今回の改革にお役に立つことができたいと思います。

そして、自分の仕事に活かせることもあり、とても勉強になりました。

仕事の改善に関わる改革は、いろんな分野の方が話し合いの中で、何かに基づいて、みんなが集まってきちんと意見交換していくと実現していくものなのだと思います。

私が思うに、今回の行政改革の主張が一番集約されていると思うのは会長が報告書の中で示された、「業務の専門化が進展する中での市民に優しい対応のあり方」ということですね。これが実現されれば、市民にとってとても良い市役所であり行政であり、利用する私たちは安心できると思いました。やさしい、わかりやすい、が一番です。

最後に行政改革の文面を作成するときなど、意見が合わず、というか観点が違いすぎて一緒にまとめることが出来ずにいたとき、無理やり意見を合わせなくてよいですよと、市の担当者の方にもアドバイスを頂き感謝しています。ほか、お忙しい中で会議の連絡など、ありがとうございました。

会長をはじめいろいろな方に、話したいことだけ話して、後は甘えてしまう場面もありました。感謝しています。

2年間ありがとうございました。

【社会長】

ありがとうございました。

私からもお礼を兼ねて少し申し上げます。

まず委員の皆さんに心からのお礼を申し上げます。24～25年度は、これまでの行政改革懇話会とは少し違う姿で進めて参りました。それだけに、委員の皆さんには会議の席上だけでなく自宅でも意見の準備をして頂くなど、従来以上のご負担をお掛け致しました。ご協力いただきましたこと、本当に有難うございました。

次に、懇話会を代表して事務局に御礼を申し上げます。お手数をおかけすることが多かったこの2年間ですが、報告書にも載せました様に、事務局のご努力により、行政改革に対する庁内各部のスタンスに変化が生まれていることを感じる事が出来ます。ありがとうございました。

懇話会の行政に対するパートナーシップには二つの面があると考えて参りました。ひとつは適切な緊張感を保ちながら安易な妥協をしない、言うなれば“物わりの悪いスタンス”であり、今ひとつは、実際に役立つ道を見出そうとする“協働のスタンス”であります。

行政の仕事は誤りを避けるという意味でも慎重であるべきです。或いは、過去につくりあげてきたモノに対する信頼と言うこともあろうと思います。一方、我々市民は、良いと思いついたことを早く進めて欲しいと願う傾向を持ちます。この両方の立場の力加減がうまく調和することにより、改革が社会に適応する適切なスピードで進められることになるのだと考えられます。

また、我々の意見は、“過去の経緯や現在の実情、或いは行政に関する専門的知見として必ずしも十分な情報を持っていない”と言う弱点と、“行政とは違う見方や立場からの発想ができる”と言う強みを持ちます。遠慮のない主張をすることと共に、行政からも吸収する謙虚さも失わずに、双方を適切に交流させることにより懇話会の活動がより有効な影響力を持つことになるのだと考えます。

また、懇話会における発言は、理念的な意見も必要ですが、同時に、市民目線で日頃感じる具体的なことの「土の香りのする発言」が大切です。「細部に神宿る」とも言われます。

そこに本質が有ることは少なくないのです。

私は、近い将来、この懇話会は行政に対しモノ申すという立場だけでなく、市民の行政に対する期待に対しても行政改革の立場から違う意見を述べなければならない時期が来ると考えています。懇話会の役割は、ますます大きくなると考えます。

ともあれ任期を終了することができてほっと致しております。

本当にありがとうございました。

【青木主査】

私の方から一言申し上げます、本当に2年間ありがとうございました。皆さんお忙しい中、お仕事を終えて参加していただきありがとうございます。

先程より、おしゃっていただいているとおり、私は行政改革担当として3年目ですが、庁内の意識は本当に変わりました。懇話会からの投げかけにも反応が返ってきますし、こちらから、行政改革について、懇話会について説明しなくても了解されるような感覚になってきております。

今後も皆様方のご意見を、的確に庁内に伝える役割を担わなければいけないのが事務局だと思っております。

また今後、機会がありましたら、よろしくお願ひしたいと思ひます。ありがとうございました。

今回のご意見を踏まえ、実施計画を3月中に本部会議を通しまして確定するという形になります。その後また、皆様の方に確定した実施計画をお送りしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

【我妻課長】

私は、2年前に初めて行革2016を拝見させていただきまして、このローリング方式というものに個人的に凄く興味がありました。

私も役所に勤めてから、何十年か経ちますが、実際、さまざまな計画は、5年スパンのものが多いのですが、その中で、毎年の変更やある程度、気が付いた所を変えるというようなことは、会議の場では、そういう事も有りえますという話はよくさせて頂いておりますが、実際に毎年、変更するという事は、こういう懇話会に参加させて頂いて、当然なんですけど、スピード感が必要なことや、決して諦めない粘り強さなどを駆使していかないと、本当の形には成って行かないと実感いたしました。

2年間ですけれども、会長のリーダーシップの下ですね、委員の皆さんに大変なご努力を頂いたことに感謝申し上げます。

【古屋主査】

私は、補助的な立場で懇話会に参加させて頂いているんですけども、参加させてい

ただいて皆様の貴重なご意見ですとか、要望など聞けて、大変私自身も勉強になっております。

意見でも出ていました、業務改善の提案の低調さですとか、そういった所は、我々の年代からですね、一步一步進めて行かなくてはいけないのかなと思っています。これから頑張っていくと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

【佐々木部長】

本当に皆様、2年間どうもありがとうございました。おつかれさまでした。

昨年、最後にご挨拶させていただいた時に、1年目ということもあって皆様方から、こういった通知箋をもらえるのか、ドキドキしていましたという話をしました。あれは1年目だったからなのかなと思ったんですが、やはりそうではなくて、通知箋だからドキドキしたんですね。今回も、このような形で、私ども事務局あるいは市役所全体の取り組みの姿勢に対してこういった評価を頂けたということは、事務局として非常に嬉しいと思っています。これだけの評価を頂けたということを、行革本部会議にしっかりと伝えてまいりたいと思っています。

先ほど課長も申し上げていましたけれども、ローリング方式というものの中で、形式的な取り組みはしなくも済む、本音で取り組むことが出来るという様な仕組みとしていただいた点は非常に大きいのではないかと感じております。

ローリング方式という、一方の仕組み。それから、もう一方では、先程、会長がおっしゃった、「ある意味物わりの悪いスタンス」と、物事を同じ視線、同じ方向を向いていっしょに進めて行く「協働のスタンス」、この2つのバランスが、会長のリードもあって、この懇話会を進行させたものと思います。2つの側面があったからこそ、市役所の行革に対するそのスタンスというのは、ここまでの高みに連れてきていただいたのかなと思っています。

行革というのは常に動かさないとならないということが、本当に、全くその通りだと思います。

職員アンケートを行いましたら、変えていかなくてはならないという意識は有っても、何処を変えていいのか分からないので結局は無駄な仕事が多いというような愚痴レベルの回答が、とても目に付きました。

そういう意味では、これから先、行革という視点でどの方向に重点を置いて取り組んでいけばよいのか、要するに具体的な問題意識は分かったので、今度は技術なり着眼点なりをどのように高めていけばよいのかというところが、今年の取り組みの中で一つ明確な課題として出てきました。

そういったことにひとつひとつ取り組んでいければ、もっとレベルの高い行政に到達でき、それにより、市民の方々により一層、喜んでいただける行政が実現出来るのではないかと考えております。

やるべきことは、沢山ありますけれども、このような場を設けて頂いたことで、ひとつひとつ、整理をしながら進んでいけるということは、我々にとっては良いことだと考えております。

行革懇話会は、行革が続く限り存在しますので、是非、次期もやってくださる方がいれば、非常に嬉しく思っております。

今日は、お礼と皆様方の2年間のご努力に改めて敬意を表しまして簡単ですが、最後のご挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。

【社会長】

丁重なご挨拶、ありがとうございました。

それではこれで、今日の会議も終わりたいと思います。

本当にありがとうございました。

【参加者一同】

ありがとうございました。

【永山委員】

最後に、懇話会が終わるということで懇話会の意見という事ではないのですが、私は懇話会の中でもいろいろ質問させていただいたのですが、ICTを活用して業務改善あるいは行革を進めて行きたいと常日頃思っていました。

これで懇話会は終わりですが、今後は一市民として私の分野を生かした提言をしていきたいと思っております。

前に私案という形で、能村委員と私とでレポートを作りまして、能村さんの方につきましては、一部実現したわけですから、私としては、続けていきたいと思っておりますので、その辺もよろしくお願ひしたいと思ひます。

【佐々木部長】

情報推進の担当にも、永山委員には大いに力になってもらいましょうという話はしておりますので、どうぞよろしくお願いします。

【永山委員】

よろしくお願いします。

【佐々木部長】

それから、浅井委員からお話があった3点ですが、電子会議システムが新年度から入りますから、それを使用すれば厚田・浜益の方がこちらの方に来なくても、会議に参加でき

るようになるかもしれないと思っています。また、そのようにしていけるようにしたいと思っています。

せっかく導入するシステムですので有効に活用します。

【永山委員】

立派なインフラがあるわけだからね。

【佐々木部長】

そうですね。

あとですね、コンパクトシティ化や人口減少の対応について申し上げますと、いま総合計画の見直し作業が佳境を迎えておりまして、その中でおそろくなんらかの言及がなされるのではないかと思います。

そういったご意見をいただいたということは、いま企画課が中心になってまとめているので、伝えてまいりたいと思います。

１００円バスですけれども、実は議会の方でもそういう質問が出ていまして、石狩市でも、以前試験的に実施したことがあります。石狩市と、１００円バスが続いている他のまちとの大きな違いは、石狩の場合は、バス路線と１００円バスが、同じ路線を走行し運営しており、そうすると、１００円バスか路線バスかということになってしまい、路線バスの運営自体が消えてしまうということになってしまいます。

その部分に、なかなか打開策が見いだせず、今に至っております。

同じ路線で競合するとしても、それ以外の例えばバスが入っていけない過疎地でどうするかなど、いろいろと視点や視野を広げて、検討はしていく必要はあるだろうと市としても考えているところです。

新年度には、いま札幌と浜益の間に路線バスが走っていますがこれが非常に赤字で、中央バスがいつ撤退するか分からないという状態ですので、そういう所の交通をどう維持していくのか検討することになります。

【菊地委員】

１００円とはいいいませんが、新港方面は朝の渋滞が凄いので、同じ方向に皆さん自家用車で走っていくのなら、本当にもったいないと思います。送迎バスなど別々の会社は何台も出していますし何かアイデアがあれば皆さん働きやすいだろうと思います。

【佐々木部長】

それについては、共同して運送が出来ないかと相当検討していますが、かなり難しい問題です。

結局、従業員のシフト等がそれぞれの会社で違います。例えば仕事が終わって1時間待っていただくなどという話にはなかなかありません。皆さん時給で働かれていますので、この点が難しい部分になります。

【菊地委員】

本当に、通勤手段の種類が増やせると良いと思います。

【佐々木部長】

問題意識としては、十分把握しておりますので、後はそれをどのように検討していくかということになっていくと思います。

【菊地委員】

石狩市は、広いですね。

【佐々木部長】

そうですね、浜益まで行くとなると。

【浅井委員】

しかし、浜益はこちらから行くというスタイルには、ならないですね。現在は、浜益からバスが来て夕方に浜益に帰るというダイヤですね。

【佐々木部長】

そうですね。

【浅井委員】

こちらの人達が、浜益方面に行ってみようとバスに乗車するということにはならないですね。

あの辺が、中央バスでもう一往復増やすことは難しいですね。

【佐々木部長】

そうですね。

【辻会長】

それでは、解散します。

どうもありがとうございました。お疲れ様でした。

【閉会】

平成 2 6 年 3 月 2 0 日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長 辻 正一